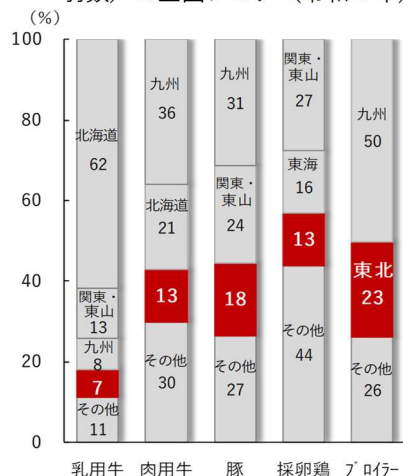


テーマは「畜産業」



家畜の飼養頭羽数と東北のシェア

図1 農業地域別にみた家畜（飼養頭羽数）の全国シェア（令和4年）



注1：採卵鶏の飼養羽数は、成鶏めす（6か月齢以上）の値を用いた（以下同じ）。
 注2：表示単位未満を四捨五入しているため、内訳の計が100にならない場合がある（以下構成グラフにおいて同じ）。
 注3：東北及び東北より上位の農業地域を表章し、それ以外の農業地域を「その他」とした。

表1 家畜の飼養戸数・飼養頭羽数（令和4年）

		乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏	ブロイラー
		戸	戸	戸	戸	戸
飼養戸数	全国	13,300	40,400	3,590	1,810	2,100
	東北	1,900	10,000	435	155	431
飼養頭羽数	全国	1,371,000	2,614,000	8,949,000	13,729	13,923
	東北	97,400	334,100	1,604,000	1,815	3,267

注：採卵鶏の飼養戸数は、種鶏のみの飼養者を除く。



東北における県別シェアと全国的にみた飼養状況

〔ブロイラー〕飼養羽数が全国第3位の岩手県

飼養羽数（東北）の県別シェアをみると、岩手県が65%、青森県が25%と大きく、この2県で9割を占めています（図2）。

全国的にみると、東北1位の岩手県の飼養羽数（2,110万羽）は、鹿児島県、宮崎県に次ぐ第3位に位置しています（図3）。

※ブロイラーとは、「食用」目的で飼養し、ふ化後3か月未満で肉用として出荷する鶏をいいます。

図2 東北各県のシェア（令和4年、飼養羽数）

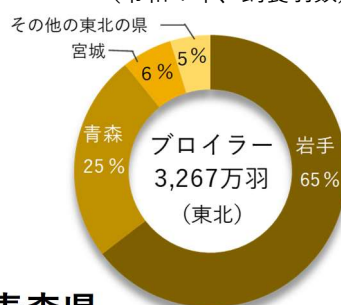
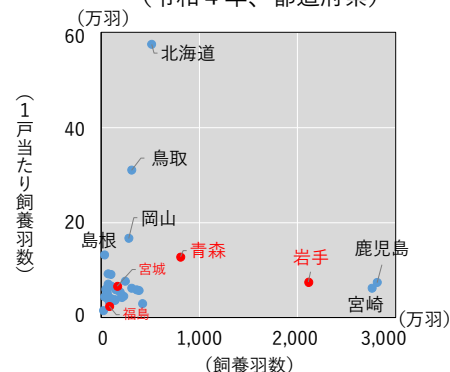


図3 ブロイラーの飼養状況（令和4年、都道府県）



注：表示している都道府県名は縦・横軸の1～5位及び東北の県（以下飼養状況グラフにおいて同じ）。

〔豚〕飼養頭数が全国上位の岩手県、青森県。

経営規模が大きいことも特徴

飼養頭数（東北）の県別シェアをみると、岩手県が31%、青森県が22%と、この2県で約5割を占めており、その他の東北の県においても、10%前後のシェアがあります（図4）。

全国的にみると、飼養頭数では岩手県が第6位（49万1,900頭）、青森県が第8位（35万8,600頭）ですが、1戸当たり飼養頭数は青森県が全国第2位（5,976.7頭）、岩手県が第4位（5,719.8頭）となっており、経営規模が大きいことも特徴です（図5）。

図4 東北各県のシェア（令和4年、飼養頭数）

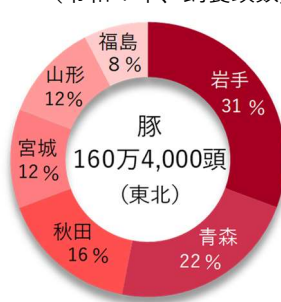
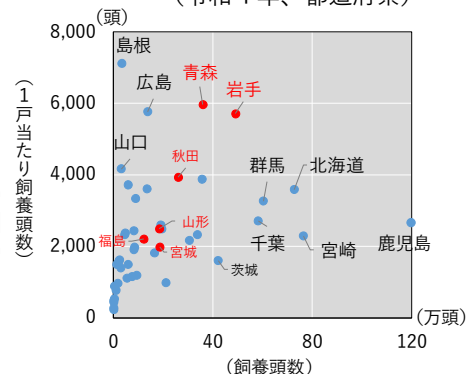


図5 豚の飼養状況（令和4年、都道府県）



[採卵鶏] 1戸当たり成鶏めす飼養羽数が全国第1位の青森県

成鶏めす飼養羽数（東北）の県別シェアをみると、青森県が26%、福島県が22%、岩手県が20%と、この3県で約7割を占めています（図6）。

全国的にみると、青森県の成鶏めす飼養羽数は第12位（465万羽）ですが、1戸当たり成鶏めす飼養羽数（18.6万羽）は全国第1位となっており、経営規模は大きいことが特徴です（図7）。

図6 東北各県のシェア（令和4年、飼養羽数）

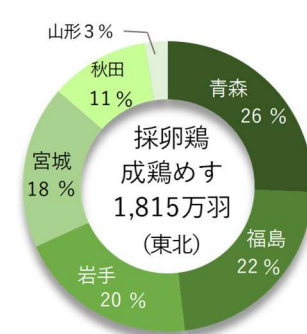
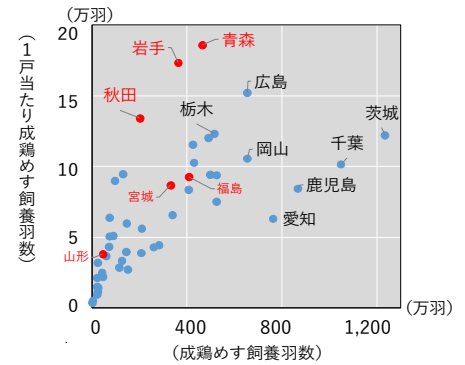


図7 採卵鶏の飼養状況（令和4年、都道府県）



[肉用牛] 飼養頭数は全国上位も、経営規模は小さい岩手県、宮城県

飼養頭数（東北）の県別シェアをみると、岩手県が27%、宮城県が24%と、この2県で約5割を占めています（図8）。

全国的にみると、飼養頭数は岩手県が第5位（8万9,200頭）、宮城県が第8位（8万頭）ですが、1戸当たり飼養頭数は岩手県が24.4頭、宮城県は29.7頭と、ともに30頭未満で、経営規模は小さいと言えます（図9）。

図8 東北各県のシェア（令和4年、飼養頭数）

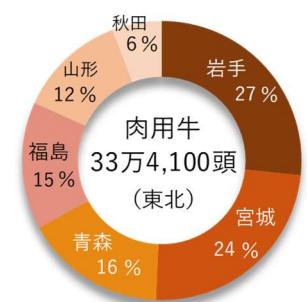
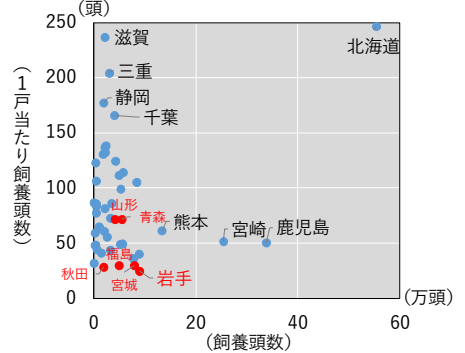


図9 肉用牛の飼養状況（令和4年、都道府県）



[乳用牛] 岩手県は単独で東北の約4割のシェア

飼養頭数（東北）の県別シェアをみると、岩手県が単独で約4割を占めています（図10）。

全国的にみると、岩手県の飼養頭数は、北海道、栃木県、熊本県に次ぐ第4位（4万100頭）ですが、1戸当たり飼養頭数（52.4頭）は他の都道府県と比べて少なく、経営規模は小さいと言えます（図11）。

図10 東北各県のシェア（令和4年、飼養頭数）

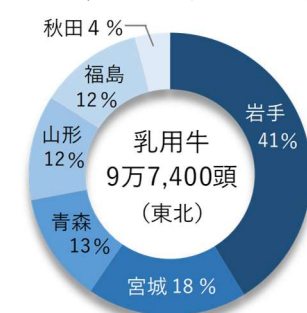
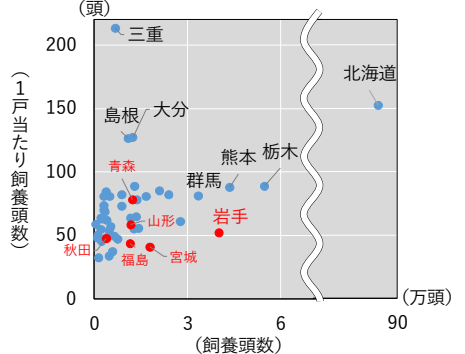


図11 乳用牛の飼養状況（令和4年、都道府県）



東北のGI (地理的表示)

地域には、伝統的な生産方法や気候・風土・土壌などの生産地等の特性が品質等の特性に結びついている産品が多く存在しており、その名称（地理的表示（GI））を知的財産として登録し保護する「地理的表示保護制度」があり、農林水産大臣が審査・登録しています。

名称	よねざわぎゅう 米沢牛	まえざわぎゅう 前沢牛	かわまた 川俣シャモ
登録番号	第26号	第28号	第118号
登録年月日	平成29年3月3日	平成29年3月3日	令和4年3月31日
生産地	山形県置賜地域	岩手県奥州市 前沢区	福島県伊達郡 川俣町
登録生産者団体	米沢牛銘柄推進 協議会	岩手ふるさと 農業協同組合	川俣シャモ 振興会

出典：東北農政局ホームページ/地理的表示（GI）保護制度・知的財産

東北地域では29産品が登録されており、そのうち畜産に関するものは左の3産品です。

レストランやスーパーなどで「GIマーク」の付いた食品を見つけたら、召し上がってみてはいかがでしょうか。

GI：Geographical Indication

Tips 豆知識

GI マーク



GI マークは、GI 登録を受けた産品に対し、地理的表示と併せて使用が認められるもので、真正な GI 産品であることを明示できます。

-お問合せ- 農林水産省東北農政局統計部統計企画課 電話：022-745-9378

家畜の飼養戸数・飼養頭羽数、用語解説などの詳しい情報（公表資料）はこちらからご覧いただけます。

農林水産省ホームページ <https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/tikusan/>

注：今回ご紹介した畜産統計調査（令和4年）のデータは概数値であり、確定した詳細な数値は、今後、農林水産省ホームページで公開します。

